

山口県農業試験場跡地の有害物質についての聞き取り

――重金属を含む農薬の「土壌処分」と青酸化合物の深井戸への投入

安溪遊地（山口市有機・環境保全型農業公園を造る会 代表）

山口市大内氷上の山口県農業試験場の跡地の土壌から基準値の 900 倍を超える有害なヒ素や、基準の数倍程度の水銀、鉛などの重金属が見つかったことを、山口県は、2023 年 11 月 24 日に公表し、マスコミでも報道されました。山口県では、なぜこのような汚染があるのか原因はわからないとしています。

この問題について「山口市有機・環境保全型農業公園を造る会」では、2024 年 9 月に、1970 年代当時の状況を知る関係者からの聞き取りをおこないました。その結果を以下にかいつまんで紹介します。私達は、この聞き取りが、山口県の 3 億円の予算をかけて現在おこなっている土壌調査と汚染土壌の除去の一助となることを願っています。

なお、土壌汚染対策法は、2002 年制定。1970 年の公害国会で制定された、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に「敷地内埋立の禁止」や「処理記録の保存」が盛り込まれたのは、1976 年の改正時でした。したがって、この記事は、当時の県職員に違法行為があったことを指摘するものではありません。ただ、目先の経費の節約のためにした行為が、拡散した汚染を除去するために将来世代に巨額の出費を強いることになるという事例として記録にとどめます。



地図 Google earth 上に、水銀 (A)、ヒ素 (B)、青酸 (C) 埋設位置を示す。

◎水銀

私が山口県農業試験場に入所したのは昭和 40 年代。私より年上の人たちはみな亡くなっています。私がこうしたことを知っている最後の世代です。

しだいに、公害の問題がクローズアップされてきた昭和 40 年代の終わり頃（1970 年代前半）のことです。水銀を含む農薬は、稲の「いもち病」に効くのと、種籾の殺菌に使うために大量に在庫がありました。ところが、危険性から水銀農薬は使用が禁止になりました（注、1973 年に使用禁止）。これを正式のルートで処分すると、大変お金がかかる。それは大変だということで、埋めてしまおうという動きになりました。ヒ素や鉛の入った農薬もありました（注、その両方を含むヒ酸鉛は、1978 年に使用禁止）。

私は、環境への影響を考えてきちんと処理するように進言しましたが、試験場内では無関心な人が多く、反対する私には知らせないようにして埋めてしまったのです。どうしても埋めるといふなら、少なくとも何をどのくらいどこに埋めるかの記録を残すように言いましたが、聞き入れてはもらえませんでした。

本館の西北のあたりに、病害虫用の作業室がありました（地図上に地点 A と表示）。ここには水銀系の農薬がありましたが、使えないということになって、作業室の外に大量に埋めたということです。正確な場所は私にはわかりません。

◎ヒ素

これとは別に、ヒ素を含む農薬を大量に埋めた場所があります。本館の北側のグラウンドの隅に、2 メートル四方ぐらいの焼却炉がありました（地点 B）。その焼却炉にトラックから投入するためのコンクリートのスロープを作ることになりました。傾斜 10 度か 15 度程度、一番高いところで人の背丈ぐらい、幅 2.5 メートルほどのスロープです。このスロープを作るときに、真下の土を掘って、そこにヒ素を含む農薬を大量に廃棄したのです。水銀を含む農薬も廃棄したかもしれません。現在は、焼却炉もスロープも撤去されています。

◎青酸ナトリウム

本館棟の西側に講堂があります。その北側に、ボーリングの深井戸が掘られていました。深さは 30 メートルばかりで、直径 20 センチほどの塩ビパイプが地下から立ち上がっていました（地点 C）。その中に、果物や穀物の殺虫に使う農薬の青酸ソーダ（注、青酸ナトリウム）を投入したのです。青酸ソーダは、酸にあうと、分解して猛毒の青酸ガスを出します。

◎地下水汚染の有無

——（聞き手、安溪遊地）地下水汚染が心配ですね。

青酸化物は、生物には猛毒だけれど、重金属とは違って、環境で分解されるものです。ですから、あれから 50 年ほどたった今では残っていないでしょうし、地下水汚染にもつながっていないと思います。

ただ、敷地のすぐ北側に、2 棟の職員官舎がありましたが（地図参照）、そこに住んでいた職員の娘さんが、奇病でなくなったのです。原因はわかりませんでした。井戸水が原因じゃないかという噂が流れました。そのあと、官舎は山口市の水道に切り

替え、試験場そのものも、きわめて豊富な地下水に依存せず、水道を使うようになり
ました。

――ほ場で使っていた農薬の残留はないでしょうか？

ほ場でも、水銀剤などをまいたところでは、土壤に吸着しているかもしれません。
酸化的な環境では移動しないと思いますが。

――その他の危険物が埋まっているというようなことはありますでしょうか？ カ
ドミウム、蛍光灯の安定器やトランスなどの中の PCB、pfas などのフッ素化合物、アス
ベスト、放射性同位元素など。同位元素は、使っても半減期が短いものでしょうから、
残らないでしょうが。

それらの心配はないと思います。建物の鉄骨に吹き付けられていたアスベストは、
大金をかけて処理しました。

マスコミの報道から

中国新聞 2023/11/24 (最終更新: 2023/11/24)

<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/389256>

山口市の農業試験場跡地で有害物質検出 基準値 910 倍のヒ素など

山口県は 24 日、山口市大内氷上の県農業試験場跡地で実施している土壤調査で、一部の区画から
土壤汚染対策法の基準値の 910 倍となるヒ素など有害物質が検出されたと明らかにした。地下水へ
の汚染は認められず、すぐに周辺へ影響が及ぶことはないとしている。来月、有害物質の除去作業を
始める。

全敷地 18・7 ヘクタールのうち 1967 年まで旧建物があった 171 区画 (1 区画 100 平方メートル)
計約 1・7 ヘクタールを今年 2 月以降に調査した結果、3 区画から基準を超えるヒ素、水銀、鉛が出
た。1 リットル当たりの土壤溶出量は、ヒ素が 0・01 ミリグラムの基準に対し 9・1 ミリグラム、水
銀が 0・0005 ミリグラムの基準に対し 0・0013 ミリグラム、鉛が 0・01 ミリグラムの基準に対し 0・
068 ミリグラムだった。

県は、有害物質が検出された原因は不明としている。12 月以降に飛散防止のシートを張り、2024
年度以降に研究室の跡地など残る対象区画を調べる。23 年度一般会計当初予算に土壤除去工事費約
3 億円を計上している。3 区画の工事費は約 7500 万円。除去作業は 24 年度まで続く予定。(山下美
波)

読売新聞 2023/11/25 09:54

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kyushu/news/20231124-OYTNT50186/>

山口県農業試験場の跡地から基準値 910 倍のヒ素…水銀と鉛も検出、周辺環境に影響なし

山口県と山口市は 24 日、県農業試験場 (山口市大内氷上 1) の跡地で、土壤汚染対策法の基準値
の最大 910 倍のヒ素が検出されたことを明らかにした。調査では基準値を超える水銀と鉛も検出
されたが、地下水の汚染や周辺環境への影響は確認されていないという。

跡地利用を検討する協議会で報告された。県農林水産政策課によると、2～9 月、敷地の一部を調
査。ヒ素は、1968 年に建設された建物横の地中から検出された。この場所には、基準値の最大 6・
8 倍の鉛も含まれていた。水銀は別の場所から検出され、基準値の最大 2・6 倍だった。

県は同法に基づき土壤を除去するほか、敷地内の他の場所でも調査を行う。